

～システム監査を通じて、ITと経営の融合とビジネス課題の解決を支援する～
 日本システム監査人協会 電子版 <http://www.saa-j.or.jp/>

◆ ◆ HOT TOPICS ◆ ◆

【本号の掲載内容】

- ◇ 目次・表題……………電子版記事 1～4
- ◇ めだか 監査人のコラム(投稿)…………… 6～7
- ◇ 月例研究会、実践セミナー、支部研究会等、開催報告……………8～9
- ◇ 全国のイベント・セミナー情報……………1～4
- ◇ 会員限定記事(紹介)……………1～4

◆ ◆ めだか ◆ ◆ 監査人のコラム(投稿)

【日本振興銀行破たん処理へ】

9月10日、日本振興銀行は、1,800億円の債務超過をかかえて破たんした。
 預金は定期預金しかないそうであるが、初めてのペイオフも実施される。
 社長になったばかりの江上剛氏、本名小島晴喜氏が頭を下げている映像が痛ましい。

…(左平次)

【続きはこちらで読めます】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

【システムリスクへのアンビバレンスな思い】

情報システムに関するリスクが、近年急激に増大しているのは間違いない。

ひとつには、情報システムを開発・運用すること自体の難易度があがっていることがその理由だろう。

システムの構築目的が、単純なコストカットだけでなく、企業経営そのものに直結するものへと高度化して
 いることや、システムの開発範囲が、単一企業だけでなく、複数主体間をまたがるものへ、さらには
 グローバルなものへと拡大していることによって作ること自体が難しくなっている。… (KP)

【続きはこちらで読めます】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

コラムは、投稿者の個人的な意見表明であり、SAAJを代表する見解ではありません。

| ◇◆ 注目情報(10/1～10/31) ◆◇

◆ METI 経済産業省(2010/10/1)

平成22年度情報化月間(10月1日～31日)について

「Global, Open, Green!」～ITが拓く新しい成長のフロンティア～

経済産業省をはじめとする関係6府省は、毎年10月を情報化月間と定め、情報化に関する普及・啓発を重点的に行っています。平成22年度情報化月間のテーマ、開催行事及び本年度の情報化促進貢献個人・企業等・情報処理システムに関する表彰等を決定しましたのでお知らせします。 商務情報政策局 情報処理振興課

【詳細はこちら】<http://www.meti.go.jp/press/20101001003/20101001003.html>

◆ IPA 情報処理推進機構(2010/9/3) プレス発表

平成22年度秋期情報処理技術者試験の応募者数について

～平成22年度の応募者総数は昨年を上回る62万人台、

ITパスポート試験は約14%の増加～

【詳細はこちら】<http://www.ipa.go.jp/about/press/20100903.html>

◆ NISC 内閣官房情報セキュリティセンター(2010/9/10)

情報セキュリティに係る公的機関との協力覚書の締結について(平成22年9月10日)

【詳細はこちら】<http://www.nisc.go.jp/press/index.html>

◆ JIPDEC 日本情報処理開発協会(2010/9/17)

「JIS Q 15001:2006をベースにした個人情報保護マネジメントシステム

実施のためのガイドライン—第2版—」の公表について

【詳細はこちら】<http://privacymark.jp/news/2010/0917/index.html>

| ◇全国のイベント・セミナー情報◇

■『SAAJメール通信 全国版』

システム監査に関連する最新情報を収集して、毎月発行しているメルマガです。

お申し込みは無料。職場の同僚の方には是非、ご紹介下さい。(SAAJ会員は登録不要です。)

《登録はこちら⇒ <http://www.skansanin.com/saaj/> 》

■【東京・月例研究会10月】

「カブドットコム証券のIT経営」をテーマに、カブドットコム証券株式会社
システム統括 執行役 阿部吉伸様にご講演を頂きます。

「昨今の外部環境の厳しさに対して、各企業は生き残りを掛けた懸命な努力が
求められています。金融業においては、電子化が一層進み、従来の株券の
完全電子化、帳票類の電子交付等、モノが無くなり、ますますITへの依存度が
高まっています。・・・」

開催日は10月29日(金)18時30分より。会場は、お茶の水総評会館です。

【詳細、申し込みはこちら】<http://www.saa.or.jp/kenkyu/>

■ 公認システム監査人特別認定講習の実施についてのご案内

【詳細はこちら】<http://www.saa.or.jp/csa/tokuninannai.html>

■ 平成22年度秋期 公認システム監査人およびシステム監査人補の募集について

【詳細はこちら】<http://www.saa.or.jp/csa/csaboshu.html>

■ 近畿支部第26回システム監査勉強会[2010/10/16, 於・大阪]のご案内

【続きはこちら】<http://www.saa.or.jp/shibu/>

■ 平成22年度情報化月間参加行事「第31回システム監査講演会」

開催日時:平成22年10月8日(金)10:20~16:30

会場 :きゅりあん(品川区立総合区民会館 東京/大井町)

○お問い合わせ先:03-5546-7366 ユニス研究会 事務局

<http://www.yuni-ken.gr.jp/>

■ 仙台にてワークショップ(セミナー)

SAAJ(日本システム監査人協会)東北支部、ITCみやぎ、JISTA(日本ITストラテジスト協会)
の3団体共催の公式行事です。昨年に続き、仙台で10月8、9日と開催されます。

下記のITCみやぎのHPで案内および申込み受けを行っておりますので、
是非皆様にご参加いただければと思います。

○案内・申込みHP

<http://www.itc-miyagi.net/modules/news/article.php?storyid=43>

■「IPA Forum 2010」(アイ・ピー・イー・フォーラム2010)

IPA(独立行政法人情報処理推進機構)は、10月28日(木)に、明治記念館にて「IPA Forum 2010」を開催します。

○プログラムの詳細、お申込み等は、下記サイトをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/event/ipaforum2010/index.html>

IPA Forum 2010では、第一線で活躍する4名の女性ITプロフェッショナルとJISA(社団法人情報サービス産業協会)人事雇用部会部会長の國井 秀子氏、就職活動を控えた女子学生によるディスカッションを行います。女性ITプロフェッショナルとしてのキャリアとIT産業の魅力、活躍の秘訣に迫るとともに、IT産業に対するイメージや期待、不安や疑問を浮き彫りにします。

○日時:2010年10月28日(木) 13:00 ~ 18:00

○会場:明治記念館 東京都港区元赤坂2-2-23

<http://www.meijikinenkan.gr.jp/access/>

○参加費用:入場無料。(但し、各講演、パネルディスカッションは事前登録が必要です。)

■ JISTA(日本ITストラテジスト協会) オープンフォーラム(全国大会)2010

創立10周年を迎えたJISTA(旧、日本システムアナリスト協会)のオープンフォーラムは、2010年11月6日に 東京秋葉原UDXビルにて開催されます。

http://www.jista.org/modules/area/index.php?content_id=33

のページ下部「全国大会に参加する」クリックにてお申し込み下さい。

大会パンフレットは以下に公開されています。

<http://www.jista.org/pdf/jista2010pamphlet.pdf>

| ◇◆ 会員限定記事(9/1~9/30) ◆◇

【本部・理事会議事録】(会員サイトから閲覧ください。パスワードが必要です)

1)9月の理事会の議事録

■発行: NPO法人 日本システム監査人協会 会報編集部

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-8-8共同ビル6F

■ご質問は、下記のお問い合わせフォームよりお願いします。

【お問い合わせ】<http://www.saa-j.or.jp/>

Copyright (C) 2010、NPO法人 日本システム監査人協会、

掲載記事の転載は自由ですが、内容は改変せず、出典を明記していただくようお願いします。

会報電子版の記事

目次

1. めだか (システム監査人のコラム)

【 日本振興銀行 破たん処理へ 】

【 システムリスクへのアンビバレンスな思い 】

2. 事例研究会報告

【 第2回 課題解決実践セミナー報告 】

月例研究会報告、および

支部からの報告、

等は、今月号の掲載はありません。

□□□SAAJ会報担当

編集委員：竹下和孝、仲厚 吉、安部晃生、成 楽秀、桜井由美子、山田 隆、片岡 学、
木村陽一、藤野明夫

投稿用アドレス: saaj-kaihoh @ yahoogroups.jp

【日本振興銀行 破たん処理へ】

9月10日、日本振興銀行は、1,800億円の債務超過をかかえて破たんした。
預金は定期預金しかないそうであるが、初めてのペイオフも実施される。

社長になったばかりの江上剛氏、本名小島晴喜氏が頭を下げている映像が痛ましい。
同氏の話では、初めの「中小企業向け銀行」の狙いがそれについていたというが、
いったん下り坂を転がり始めた組織の建て直しは、難しいのであろう。

逮捕された元会長が起訴されれば、裁判で、問題点が明らかになる。
教訓に富む話があるのではないか。

(左平次)

マンジュシャゲ(曼珠沙華) 花ことば: 悲しき思いで、再会

赤い曼珠沙華と蝶、珍しい白い曼珠沙華の見事な彩りをお伝えします。

埼玉県日高市の巾着田(きんちゃくだ)は、日本有数の曼珠沙華(まんじゅしゃげ)の群生地です。
約100万本が高麗川の川辺を真っ赤に染め上げます。周辺にはハイキングコースも整備され、
季節の自然を満喫できます。毎年9月20頃から半月ぐらい、珍しい白い曼珠沙華も含めて
見事な彩りを見せてくれます。
今年は、暑さのために、開花が1週間程度遅れて、花にも厳しい夏だったようです。



(写真提供 榎本 吉伸)

【システムリスクへのアンビバレンスな思い】

情報システムに関するリスクが、近年急激に増大しているのは間違いない。

ひとつには、情報システムを開発・運用すること自体の難易度があがっていることがその理由だろう。システムの構築目的が、単純なコストカットだけでなく、企業経営そのものに直結するものへと高度化していることや、システムの開発範囲が、単一企業だけでなく、複数主体間をまたがるものへ、さらにはグローバルなものへと拡大していることによって作ること自体が難しくなっている。

また、システム開発手法・環境もここ10年間くらいで大きく変わってきている。ゼロベースのスクラッチ開発ではなく、コンポーネントやパッケージの組み合わせによる、「できるだけ作らない開発」へのシフトによって、開発効率は上がってきているものの、オープンという名のブラックボックス利用を前提としている工法では、完成後の信頼性・安全性の確保はとて難しくなることは言うまでもない。

また、ユーザがシステムに求めるQCDが厳しくなってきたことも大きい。企業が提供しているサービスとシステムとが表裏一体になっている環境では、システムの品質維持は何よりも優先される。また、当然ながら重要なデータを扱うことが増えることによりそれを守ることも必要不可欠な要素となっている。同時に、企業のビジネスモデル変革スピードが加速化することにより、システム開発の工期を短縮するニーズも強くなっている。そして何よりも、右肩下がりの経営環境化では、コスト圧縮を求める経営側の要求は強くなる一方である。

統計をとっているわけではないが、システム故障・障害件数は年々増えていると思う。情報システムを提供するベンダサイドも、利用するユーザサイドも双方疲弊してきているのは間違いない

他方、日本という国は、情報システムに対して、あまりにも高い信頼性・安全性を求めすぎているのではないかという思いにも囚われてしまう。

時刻どおりに動く交通機関、極めて安定的に提供されるガス・水道・電力サービス(そういえば、「停電」って最近いつあったらうか)。高品質なサービス提供を維持できることは日本の誇るべき長所であるという声を否定する気はないが、数分間遅れた鉄道では延々と謝罪放送を流し続けられ、数時間サービス提供がとまった企業はまるで大きな犯罪を起こしたように報道され、経営陣は謝罪会見を行うという環境。高信頼性を維持するために投入される社会コストを鑑みたとき、「過剰品質」という言葉が頭を過ぎり、このような状況自体がグローバルな視点でみたときの「ガラパゴス」ではないかという不安をどうしても覚えてしまう。

また、個人情報保護が重要な事項であることは間違いないにせよ、情報漏えいへの行き過ぎた恐怖心が、「机にワイヤーで縛り付けられて持ち歩けないノートパソコン」環境を生み、企業経営において極めて重要なはずの情報活用とは真逆の「できるだけ情報は持たないようにすぐに破棄してしまおう」という行動につながっていることはないだろうか。

システム監査とは「客観的なシステムリスクの可視化」だと考えている。

問題は、見えたリスクに対して何を提言していくかということだろう。システム監査人は、ただ「リスクがあるからこれをなくせ」とチェックリストに沿って述べるだけではいけない。先に述べたとおり、リスクを減らすことがコストを増加させ、パフォーマンスを低下させることに確実につながることを理解した上で、対象組織と組織を取り巻く環境を十分に加味した妥当なメッセージを提示しなければならない。

間違っても「角を矯めて牛を殺す」ことにならないように。

(KP)

■事例研究会 第2回 課題解決実践セミナー報告

報告者(畠中 道雄)

■概要

事例研究会では、去る 8月21日、常翔学園大阪センターにおいて、第2回の課題解決セミナーを開催しました。今回は、近畿支部に準備をお願いし、事例研から入谷和彦氏、大西智氏が講師として参加、19名の受講者の方と、4時間のセミナーを実現させました。

□課題解決実践セミナー

課題解決セミナーは、事例研究会がシステム監査の普及のために、新たに企画したセミナーです。2009年初めのセミナー構想以降、会員から事例の提供を受けながら、カリキュラムや教材の検討を重ねて完成させました。

セミナーは、実際に発生した情報システムの事故・障害の一つを取り上げて、講義と簡易演習を組み合わせて、次のようなプロセスで進みます。

STEP1. 事故・障害事例を把握する。

STEP2. 問題事象を考える。

STEP3. リスクを考える。

STEP4. リスク対策(コントロール)を考える。

STEP5. システム監査の評価ポイント

本セミナーは、身近な事例を使うことで、ふだん、情報システムやシステム監査に馴染みのない受講者にも、システム障害が他人事でないことを認識していただくとともに、リスク分析とリスク管理、監査人の立場からすればシステム監査の重要性を理解していただくこと企画されました。

時間の関係で多くの事例を取り上げることは出来ませんが、受講者の業種や職業が限定される場合は、相応しい事例を使えるように、教材の開発を続けてまいります。

セミナー終了後、受講者からは次のような感想が聞かれました。

6月の入門セミナーを受講し、そのステップアップ編という位置づけで申し込みをさせていただいた。私自身は実際の業務で監査を行う立場に立った経験は無く、事例研究を通してシステム監査人はどのようにアプローチしていくのかという点に興味があった。

事象の把握から5つのステップを経て、システム監査の評価ポイントへたどり着くという

のが今回講義いただいたアプローチの方法論で「明・周・承・見・記・合・存」の呪文(?)をキーワードに具体的な評価に落とし込むというところがよく分かった。

このキーワードはITの分野に限らず、何らか組織だったプロジェクトであれば、それを失敗なく完遂させるために必要となる管理ポイントではないかを感じる。その点でも今回のセミナーはシステム監査人だけでなく、実際にリスクコントロールを行って失敗を未然に防ぐ立場にあるプロジェクトマネージャー人材、あるいは組織責任者の立場の方にも受講を勧めたい内容であると思う。(山本全 様)

(セミナー風景)



(記 畠中道雄)